

解答	配点
問一 (ア) 1 ぎょうし 2 ぎんみ 3 せんかい 4 いまし (イ) a 4 b 2 c 3 d 1 (ウ) 3 (エ) 3	問一 各2点×10 = 20点
問二 (ア) 2 (イ) 3 (ウ) 4 (エ) 3	問二 各4点×4 = 16点
問三 (ア) 1 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) 3 (オ) 1 (カ) 4	問三 各4点×6 = 24点
問四 (ア) 3 (イ) 2 (ウ) 4 (エ) I 自由を拡大 II 非難 (オ) 3 (カ) 1 (キ) 4 (ク) 3	問四 (ア)2点 (イ)4点 (完答) その他各4点×6 = 24点 計30点
問五 (ア) 2 (イ) (例) (一週間に十二時間以上の時間を)情報機器の使用に費やしている人の割合が高く、交際(を目的として使用している人が一番多いということが読み取れます。)(24字)	問五 (ア)4点 (イ)6点 計10点 合計100点

問一 漢字の読み、熟語、文法、短歌の鑑賞文

- (ア) 1の「凝視」は「ぎょうし」と読み、「目をこらして見る」という意味の言葉です。
 2の「吟味」は「ぎんみ」と読み、「品質・内容などについて、詳しく調べ確かめること」という意味です。
 3の「旋回」は「せんかい」と読み、「円形の進路で回る、また回すこと」という意味です。
 4の「戒」の音読みは「カイ」です。「警戒」などの熟語があります。同じ音読みの「械」と間違えないように気をつけましょう。

(イ) a～d, および1～4の各文中の——線を含めたカタカナを漢字で書くと、以下のとおりになります。

- a: 看板 1: 創刊 2: 干潮 3: 根幹 4: 看護
 b: 放送 1: 車窓 2: 送信 3: 操作 4: 装飾
 c: 吸収 1: 研究 2: 学級 3: 呼吸 4: 迷宮
 d: 垂れ 1: 垂直 2: 推進 3: 帯同 4: 隊列

(ウ) 「よう」は、推量・意志・勧誘の意味を添える助動詞です。助動詞「ようだ(ようです)」の一部と間違えないようにしましょう。例文では、「一緒に」という言葉があることから勧誘であることがわかります。したがって、3が正解となります。1は助動詞「ようだ」の一部、2は「推量」、4は「意志」の意味で使われています。

(エ) 「見たき」は「見たい」という意味で、この場合「試す」という意味で使われています。したがって、「この天鵞絨のように手触りの良い赤いばらに触れてみたい」という作者の願望が表現されている3が正解となります。

問二 古文の読解

本文の現代語訳は、おおよそ次のとおりです。

ある人が言うことには、もともと、それぞれの芸能や家職の家に生まれたなら、もちろんのことだが、そうでない者たちも、身分などに応じて、能力は必ず備えるのがよい。中にも家名を継いだ者が、芸の技量が浅く、家名を継がないこともある。その道に生まれた人でなくても、才能によって、道を極めるという徳もあれば、家名を継ぐため、道を極めるため誰もかれも、ともに励むのがよい。

(人が)何となく入り混じっているときは、その違いはなかなか見えないものであるが、芸能があることによって、呼び出され、ただ仲間内での遊びをしているときも、仲間より抜きん出て、何事も行くだらうことは、(才能のない人と才能のある人が行った場合を比べると、)天地ほどの差があると思われ、人目にも大変素晴らしいと映るものである。

総じて、容貌の美しく、品位が高い人であっても、身分の低いやしいながらも能力がある人と立ち並んだ際には、その品や容貌の良さもきっとどうでもよくなってしまふものだ。たとえば、桜の周りにある年中緑色の葉をつける木は、ちらっと見ると、どうしようもないくらい興が冷めてしまうものだけれども、春も暮れになり、峰の嵐が過ぎた後は、(常磐木の)緑の葉だけが残り、仮の花の匂いなど、残らなくなってしまうのと同じである。

それ故に、

桃やすももは一時に栄える花である

松の木は千年の常緑樹である

と言われる。

- (ア) —線1の直前の内容から、家名を引き継げる立場に生まれた者だが、才芸が不足しているのが家名が継げないということが読み取れます。したがって2が正解となります。1は「才芸を身につけることが許されなかった人々がいる」が、3は「芸道や家職の家の生まれでないため家名を継げない人がある」が、4は「家名を継ぐと才芸がおろそかになると考える人がある」が誤りです。
- (イ) —線2の直前の内容から、何事につけても、才芸のある人が行えば、才芸のない人が行うのと比べて、雲泥の差があり、人目にも素晴らしく映るということが読み取れます。したがって、3が正解となります。1は「品位の劣る者が行った物事の結果のほうが人目には素晴らしいと高く評価される」が、2は「才芸がある人は本来の能力を発揮できなくなってしまい」が、4は「結果に生じる天地ほどの差が縮まる」が誤りです。
- (ウ) 「されば」という言葉に着目して、三段落目を確認しましょう。容貌や品位が高い人も、たとえ身分が低い人であっても能力のある人と並んでしまえば、身分や容貌の美しさなどどうでもよくなってしまおうと語っています。このことは、花をつけた木と常緑樹があったとき、花は確かに常緑樹より美しく、常緑樹は見ているうちに興ざめもしてしまいが、嵐があっても緑は残っているということが例として挙げられていることからわかります。ここから、花にたとえられているものは身分や容貌、緑に例えられているものは常緑樹の葉であるとわかります。つまり、身分の高さや容貌は一時のもので、身についた能力はずっと残るものだといっているということがわかります。したがって、4が正解です。
- (エ) 現代文の問題と同じく、本文との内容一致を問う問題では、本文と選択肢とを照らし合わせ、正誤を判断しましょう。1は「才芸の能力を持つ人物は召し抱えられてしまい、家業を継げるほどの人物がいなくなってしまう」が、2は「能力はあるが才芸の家に生まれなかった者とは天地ほどの差があることから、才芸の家に生まれなかった人々は無念だ」が、4は「能力の低い人の方が目立ち、人々は嫌な気分になってしまう」が誤りです。

問三 文学的文章の読解

- (ア) 「九郎兵衛」と「六兵衛」は「新蔵」が来た経緯をあらためて聞こうと呼び出し、その経緯が人に聞かれてはならないものである可能性もあるので、一階の奥にある部屋に通して誰も近づかないようにしたことを読み取りましょう。したがって、1が正解となります。2は「今回は客人の『新蔵』に失礼がないように気を遣った」が、3は全体的に、4は「外国と取引する方法」が誤りです。
- (イ) —線2直前の場面で、「新蔵」の覚悟が読み取れます。主人の悲しみや苦しみ、心の傷手を察し、主人の命に背くことだとしても絶対に自分の力で第八龍神丸を探し出すと心に決めたということが分かります。したがって、2が正解となります。1は「努力を『佐江』や『唯義』に認めてもらうためには、日本だけでなく他の国も探す必要があり」が、3は「『佐江』では業務を取り仕切るには力不足であるため」が、4は「『佐江』や『唯義』に失望されないために」が誤りです。
- (ウ) —線3直前の「六兵衛」の言葉から「思いもつかぬこと」の内容が読み取れます。唐に行く方法が一つだけあるが、連れて行ってほしい人がいて、さらにその人を必ず日本に連れて帰ってもらいたいと条件を出されます。そして、その連れて行ってほしい人物がこの前助けた「ななえ」であると言われたことに言葉も出ないほどびっくりしたということが分かります。したがって、4が正解となります。1は「『六兵衛』の発想の豊かさに感心した」2は「思いもよらないほど簡単な内容」、3は「あまりに非常識なことだと感じた」が誤っています。
- (エ) 唐に渡ってしまえば日本に二度と帰ってこられず、一緒に行くはずの母親が亡くなってしまったため、勝手にわからない異国の地で「ななえ」がひとりて暮らすことになるということをどう思っているのかと心配している気持ちを読み取りましょう。したがって、3が正解となります。1は「憤る気持ち」は読み取れず、2は「母親が病で亡くなったというのに父親が唐から帰ってこないため」が誤りで、4は母親が亡くなったから日本を離れることになったのではないため誤りです。
- (オ) —線5の「狐につままれる」という慣用表現は、「事の意外さにあっけにとられるさま」などを意味する表現です。また、—線5の「なにもかも」という語句に着目しましょう。この「なにもかも」が指しているのは、「新蔵」が長崎に来てからの一連の流れです。つまり、長崎に来て「ななえ」を助け、海難事故にあった船があることを聞き、その船が唐に渡ったかもしれず、その船に乗っていた人物が「孝義」であるかもしれないことが思い浮かび、そこに「ななえ」の後見役である「六兵衛」から唐に渡る計画を持ちかけられます。この流れがあまりにも順調なので、あっけにとられているというわけです。したがって、1が正解となります。2は「大掛かりな計画を一人で実行しようとする『六兵衛』の行動力」が、3は「『新蔵』の願いにこたえるように船を早急に手配した『六兵衛』の手ぎわの良さ」が、4は「すべてが『新蔵』の思い通りに動くようなできすぎた計画」が誤りです。
- (カ) 文章について述べた文の正誤を判断する問題です。表現技法などについて触れられている部分は、必ず本文と照

らし合わせて判断するようにしましょう。本文は、「ななえ」を連れて唐に行き、必ず連れて帰ってくることを条件に、「小此木孝義」の手がかりを探す「新蔵」の覚悟を中心に多くの会話文を用いて描かれています。したがって、4が正解となります。1は「比喻表現を多用して印象的に」が、2は「『唯義』との約束を思い出して葛藤する」が、3は「『新蔵』の視点から描かれている」が誤りです。

問四 説明的文章の読解

- (ア) **A**の直前に、「社会からどのような扱いを受けても文句は言えない」とあり、直後では「あなたがいま属している集団に安住することも許さない」とあることから、どちらも効率性への意識が強まった社会からの扱いについて述べられています。したがって並立を表す「また」または「そして」が入ります。次に**B**ですが、直前に「『意図』を察して従わなければいけないというのは、この世は地獄だ。」とあり、直後に「集団から抜け出し、別の集団を求めて移動する」とあることから当然の原因と結果である順接を示す「だから」が入ることが分かります。よって3が正解となります。
- (イ) 場の抑圧性にうんざりしたのは日本の前近代性が原因で、旧態依然とした日本的な場の構造、つまり、世間体と人の目に縛られた閉鎖的な「ムラ」の構造に嫌気がさしたということを読み取りましょう。したがって、2が正解です。1は「昔からの独自の考え方に対して閉鎖的になってしまう」が、3は「新しい考え方に縛られる閉鎖的な『ムラ』」が、4は「新しい考え方をする人がこれまでの慣習を維持する人を場から追い出す」が誤りです。
- (ウ) 「黒船」を「抑圧的な日本型システムからの解放者」と思い期待したということを読み取りましょう、したがって、4が正解となります。2は本文の「単に経済的な閉鎖性への指摘ではなく、日本社会全体の閉鎖性、抑圧性への指摘であるかのように私たちには受け取られたのではないか。」とあることから、誤りです。
- (エ) **I**は直前の「効率的に生きれば」に着目し、該当箇所を本文中から探します。その場合、「強化された『効率性』への意識は（第7段落）」から「『生きる意味』を取り戻す行動であるだろう。（第8段落）」までが該当します。この中から「効率的に生きれば、私たちの（なに）ができるようになるか」を探すと指定の字数より第8段落後半の「自由を拡大」が当てはまります。**II**は「効率的に生きられないのであれば」とあり、Iの「効率的に生きれば」と対比して書かれている箇所を探します。すると▼と同じ段落に「効率的に生きていないとするならば～非難が待っている。」とあり、指定の字数よりIIには「非難」が当てはまります。
- (オ) ここでの「ある面」とは満足できない集団から自由に移動できるということで、その点では私たちは解放され自由を拡大し、「生きる意味」を取り戻す行動であるということを読み取りましょう。したがって、3が正解となります。1は「利益より意義のある安定を得るための行動である」が、2は「自分にさらなる利益をもたらす集団を求めて」が、4は「集団の『意図』に添うことで居場所を手にすること」が誤りです。
- (カ) ——線5直前に「『自由』が常に『もっと効率的に生きる』という脅しに裏打ちされている」とあり、その場合は集団から解放され自由になったかもしれないが、効率性を考え続けなければいけないことから解放されていないということを読み取りましょう。2は「最大の効率性が保証される場所が失われる」が、3は「結局は意図を察してその場の論理に従わなければならないため、本当の自由が無くなる」が、4は「効率性を安定させるための規則や意図からは解放されず」が誤りです。
- (キ) ——線6直前の指示語に着目すると、「フリーライド（ただ乗り）」を恐れて長期的に人材を育成せず、短期的な成果に基づいて評価を行うことであり、こうなると常に自分の評価がどうなるのかという疑念がいつでもおきてしまい、毎日のように「人の目」を気にしなくてはならなくなるという内容を読み取りましょう。したがって、4が正解となります。1は「短期的に成果が出せなくなると、長期的に人材を育成するための時間や費用を費やす余裕がなくなる」が、2は「組織からの評価の正当性に疑問を持たざるをえない社会となってしまう」が、3は「自分の評価が良いのか悪いのかすらわからない社会」が誤りです。
- (ク) 本文の内容との正誤を問う問題です。選択肢と本文とがどのように対応しているかを正しくつかみ、必ず本文と照らし合わせながら正誤を判断していきましょう。1は「両者の優劣」、2は「生きる意味を充実させるうえで大切」、4は「生きる意味の本質が効率性や『人の目』の意識となった」がそれぞれ誤っています。したがって、3が正解となります。

問五 資料を含む文の読解と記述

- (ア) 「Bさん」が提示したグラフ1を「Cさん」が年齢別に注目して読み取った内容が入ります。グラフ1を見ると、使用割合が最も高い年齢は20～24歳で、男女ともに同様であることが読み取れ、20～59歳では男性より女性の使用割合のほうが高いことも読み取れます。したがって2が正解となります。

(イ) グラフ2とグラフ3を確認しましょう。まずグラフ2を確認すると、20～24歳でスマートフォンやパソコンを1週間に12時間以上使っている割合が最も高いことがわかります。また15～19歳も高く、グラフ2で考えると男性は3番目、女性は2番目に高いことがわかります。そして、グラフ3を確認すると、15歳～24歳では、交際に最もスマートフォンやパソコンが使われていることがわかります。ここから、この年齢層は、1週間にスマートフォンやパソコンを12時間以上使用している割合が高く、その用途は主に交際に使っていることがわかります。[]のあとに続くAさんのセリフから、解答する内容の大まかな方針を決めてもよいでしょう。

<正答例>

・(一週間に十二時間以上の時間を)パソコンやスマートフォンに費やしている人の割合が高く、交際(を目的として使用している人が一番多いということが読み取れます。)(29字)

※誤字、脱字などがある場合は、その数にかかわらず2点減点となります。また、表現に問題があって内容が解答の趣旨から少し外れているが、許容できると考えられる場合も、2点減点となります。